



学校だより

葦

6月号

学校教育目標 自主・自立～活力と魅力あふれる学校を目指して～

令和6年6月11日

市川市立福栄中学校

## 「授業を大切にすること」

4月から新学期が始まり約2か月が経ち、体育祭、修学旅行と大きな学校行事も終わりました。6月18日（火）19日（水）には1年生にとっては初めての定期試験となります。そこで学校として改めて学校の一番の役割は、生徒たちに学力を身に付けさせること、そのためには毎日の授業を大切にすることを教職員間で確認しました。授業では「主体的・対話的で深い学び」の授業の実践を目指していますが、その前に、チャイムで授業が始まる。しっかり机の上に必要な学用品が準備できている。静かに授業に向かう雰囲気が出来ている。全員がしっかり先生の方を向いて挨拶が出来ている等、まずは土台となる授業規律が定着していることが前提となります。

授業を大切にすることがどういうことなのかを改めて考えてみました。こども時代は、「できること＝可能」を開拓・拡大していく時期です。だから授業ではまだ知らないことを教わったり、出来ないことを頑張って出来るようにして自分の可能性を伸ばします。授業をしっかり受けられないということは、自分の可能性の開拓・拡大をしないことであり、それが自分を大切にしていないということです。また、この時期に「やりたいこと＝願望」を中心にしてしまうと、自分の可能性の範囲も知らずに「出来る」と勘違いしたり、未知のものをやりたくないと子どもの快不快だけを基準にして排除してしまうことも気を付けなければなりません。

そして、周りの環境に左右されずに、しっかり授業を受けることが大切です。何かと周りを理由にして言い訳ばかりしていると、自分で問題を解決していきません。そして自分にとって都合の良い環境の時しか、力が発揮できなくなってしまうことは非常に自分の可能性を狭めてしまいます。これも自分を大切にしていないことです。

主語は「私が」です。「あなたが」「周りの環境」でなく、常に自分が主体となって何事にも取り組む必要があります。保護者の皆様におかれましては、ご家庭でお子様と、この話を話題にさせていただくと共に、学校を創る当事者として共通理解をお願いします。

## 今年初めての試み「放課後学習クラブはじまる」

今年度、生徒たちの放課後の学習の場を確保するため、放課後学習クラブを立ち上げました。学習センターを開放して1回目5月23日（木）4名、2回目6月6日（木）34名が参加し、真剣に学習に取り組んでいました。活動内容は自習をしたり、授業で分からなかった所を担当の教員に質問ができます。

今後は、生徒のニーズに合う開催方法を検討しながら継続して週1回木曜日の放課後に開催していく予定です。

これから始まる定期試験Ⅰに向け、6月13日（木）も開催します。たくさんの生徒の学習の手助けになればと考えています。

（※詳しくは生徒指導、鈴木が窓口となります。）



6月6日の様子

# 生徒達、ボランティアとして地域に貢献！！

今年度、ここまで福栄小学校運動会、福栄中ブロックナーチャリングコミュニティのボランティア活動にたくさんの生徒が参加して、地域に貢献しています。

昨年度から継続してボランティアに参加して経験を積んでいる3年生や2年生が多数おり、リーダー的な存在として、1年生の良き見本となっています。

自分たちが住んでいる地域に貢献できることは大変素晴らしいことです。これからも福栄中の特色として生徒のボランティア活動を推奨してまいります。



福栄中学校ブロックナーチャリング  
～ダンボール工作～

生徒達のボランティアや学校での活動の様子は福栄中学校 HP  
をご覧ください。

## ～反抗期について～

※反抗期について興味深い本の内容があったので抜粋して、紹介させていただきます。

様々な調査を見ますと、大学生までに反抗期を経験したことがある人は50%ぐらいのようです。反抗の内容として、親に口答えしたり、暴言を吐いたり、無視や拒否、家出等があります。

反抗を親子間のズレから考えてみます。生まれたばかりの赤ちゃんは自分で歩くことも食べることもできません。すべて親にやってもらわなければなりません。ですが1年も経つと自分で立って歩けるようになります。それは赤ちゃんにとってはとても楽しいことです。その時に親に抱きかかえられて歩いてはダメと言われたらどうでしょうか？これは親子のズレが生じることになります。

親子関係は大人になるまで5つの段階に分けられるといえます。

- ①親が子を手の届く範囲に置く段階(1歳ぐらいまで)
- ②親が子を目(あるいは声)の届く範囲に置く段階(1歳から小学校に入る前まで)
- ③親が子を信じ期待する段階(小学校時代)
- ④親が子と距離をとり、子の判断に任せる段階(中学生から大学生ぐらい)
- ⑤親と子が対等になる段階(大学生以降)

たいていの場合、子どもの方がこの段階を進むのが早いということを理解することが重要です。中学生や高校生では、だんだん自分のことを考えて決めていきたいと思うようになります。これは④の段階になっています。ところが、親の方は「勉強しなさい」「早く帰ってきなさい」と言っていたならば親の方は②の段階であり、親と子は2段階のズレが生じています。反抗は親に対して「私はそんな段階にいないよ。早く私と同じ段階まで進んで来て」というメッセージであるとも言えます。

※抜粋文献:「叱らない」が子どもを苦しめる 藪下遊/高坂康雅

～お願い:学校だよりは HP でご覧下さい。

ペーパーレスにご協力お願いします。～